

現代の私どもの生活、そして子どもたちの生活の中から失われつつある大切なものがいろいろあるが、物的な環境の中からその一つをとれば、木材の建物や家具である。今月号の山本孝氏を囲む懇談会では、新しく学ぶところが数多くあった。木の床や木のいすは、冬暖かく夏涼しく、体の湿気を吸って人の健康のみでなく、気持ちに落着きを与えるということ、幼稚園の環境づくり、新築、改築のときなど、考慮せねばならぬことがいろいろ示唆されている。先日も、幼児用の木製のいすをそろえたいと思い、業者に注文したが、どこでも量産していないということに驚いた。子ども心に落着きを与えたいと思えば、パイプ製ビニールばりのいすよりも、木のいすがはるかにまざっていることは、うなずける。幼児の生活が快くなるように、木のいすが再び量産されて簡単に手に入るようになることを望みたい。

現代の生活の中から失われつつあるもののもう一つは精神的なもので、空

想や想像の生活である。子どもたちは一枚の紙きれ、一片の木片を、生きていくのようには話しかけたり動かしたりしてあそぶ。お人形を自分自身のようにかわいがる。以前に番町幼稚園におられた徳久先生からうかがったことであるが、先生の若いころの毎年の仕事の一つは、担任の子どもたちの一人ひとりに、その子のお人形を作ってあげることだったという。いまの人形は合成樹脂で作られており、修理もできないし、手もぎれたりよごれたりすると、母親はどんどん捨ててしまう。人形に対する子ども達の愛着、手がとれてしまった子どもの悲しみに気がつかないかのようである。子どもの心もまた摘みとられてしまう。現代の忙しい生活の中で、子どもには人間らしいゆとりを与えるようにせねばならないし、幼稚園が考えねばならぬ課題であると思う。

(津守)

今月号の巻頭は、お茶の水女子大学の現学長、谷田閼次氏に書いていただいた。谷田先生は、服飾美学の専攻の学者である。

## 幼児の教育 第七十一巻 第十号

十月号

定価一〇〇円

昭和四十七年九月二十五日印刷  
昭和四十七年十月一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼  
発行者 津 守 真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いたします